

全国学力・学習状況調査の結果及び分析・方策について 令和7年度

全国学力・学習状況調査は、3年生を対象に、学習指導要領で国が求めている学力の達成度と、学習への取組や生活習慣、学習環境などの状況について調査するためものです。今年度は始業式の次の週の4月17日の木曜日に、国語、数学、理科（理科についてはweb回答）について実施しました。

国では、この調査で測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校の教育活動の一側面にすぎないと説明していますが、結果を参考にしながら学びの質を向上させていきたいと思います。

| 正答率% | 国語 | 数学 | 理科 |
|--------|------|-------|------|
| 本 校 | 47 | 36 | 43.3 |
| 鳥取県 | 52 | 44 | 45.0 |
| 全 国 | 54.3 | 48.3 | 48.3 |
| 全国との比較 | -7.3 | -12.3 | -5.0 |

※国・数の学校・県は整数値のみを公表

【1 教科に関する調査をうけて】

右上の表のように、全体の正答率では3教科とも県・全国平均より低いという結果であった。

<国 語>

全体の平均正答率は、全国・鳥取県の数値ともに下回る結果であった。

「知識・技能」、「思考・判断・表現」に関わる問題の平均正答率が全国・県を5ポイント程度下回った。中でも、「思考・判断・表現」の中の「書くこと」が全国平均と比べて8.4ポイントも低い。この領域の問題として今回の調査では【目的に応じて集めた資料を整理し、伝えたいことを明確にすること】、【文章の構成や展開を考えること】、【読み手の立場に立って表記や語句の用法、叙述の仕方などを確認し、文章を整えること】を見る問題が出題されていたが、いずれも低い正答率であった。この結果をみると、書くことの資質・能力が確実に育成できるよう、実際に書く活動を多く取り入れることが必要と考える。（例えば日常の生活の中でも意図的に書く作業を取り入れるなど）また、相手に正確に伝わる文章となるために、根拠を明確にして書いたり事実や事柄を具体的に示したりすることが必要である。

質問紙では、全体的には県や全国の平均より少し低いが、国語の授業に対する姿勢や意識は備わってきてていると思われる。しかし、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という問い合わせ

| 教科 | 分類 | 区分 | 平均正答率(%) | | |
|-----|-----------|---------------------------------|---|----------------------|----------------------|
| | | | 湯梨浜中 | 鳥取県 | 全国 |
| 全 体 | | | 47 | 52 | 54.3 |
| 国語 | 学習指導要領の内容 | 知識及び技能 | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 40.4 | 46.7 | 48.1 |
| | | (2) 情報の扱い方に関する事項 | | | |
| | | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | | | |
| | | A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと | 46.3 42.4 58.8 | 49.3 50.4 60.3 | 53.2 52.8 62.3 |
| | | 知識・技能 | 40.4 | 46.7 | 48.1 |
| | 評価の観点 | 思考・判断・表現 | 47.8 | 52.5 | 55.3 |
| | | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |
| | 問題形式 | 選択式 | 55.9 | 60.9 | 63.9 |
| | | 短答式 | 71.3 | 71.3 | 73.6 |
| | | 記述式 | 16.3 | 23.5 | 25.3 |

<教科に関する質問紙の結果>

【国語】

肯定的回答が全国平均をかなり上回った項目
なし

肯定的回答が全国平均をかなり下回った項目

▲国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、目よりもできるようになったところはどこかを教えてくれますか

対して、8割の生徒が肯定的回答をしてはいるが、全国平均より5ポイント低く、日常社会での国語力の必要感を考えると、もう少し肯定的評価の割合が高くても良いのではと思われる。書くことにもつながるが、ICT環境の普及とあわせて、語彙力や表現力にも力を入れたいところである。

<数 学>

全体の平均正答率は、県平均、全国平均に対して低い結果であった。今年度も問題に対して全国の正答率も高いとは言えない中ではあるが、全国に比べて10ポイント以上に低い結果となった。

評価の観点別では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」とともに県・全国よりも低い結果になった。

領域別も、すべてにおいて平均を下回っているが、特に気になるのが「数と式」及び「関数」の領域である。「1から9までの数の中から素数を選ぶ」、「内角が 50° のときの外角の大きさを求める」、「一次関

| 教科 | 分類 | 区分 | 平均正答率(%) | | |
|----|-----------|---------------|-------------|------|------|
| | | | 湯梨浜中 | 鳥取県 | 全国 |
| 数学 | 学習指導要領の領域 | 全 体 | 36 | 44 | 48.3 |
| | | A 数と式 | 29.9 | 37.2 | 43.5 |
| | | B 図形 | 34.3 | 43.2 | 46.5 |
| | | C 関数 | 34.5 | 44.8 | 48.2 |
| | 評価の観点 | D データの活用 | 50.7 | 55.6 | 58.6 |
| | | 知識・技能 | 43.2 | 50.1 | 54.4 |
| | | 思考・判断・表現 | 25.7 | 35.0 | 39.1 |
| | 問題形式 | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |
| | | 選択式 | 38.6 | 47.9 | 54.0 |
| | | 短答式 | 41.9 | 48.4 | 52.0 |
| | | 記述式 | 26.8 | 35.6 | 39.6 |

数のyの増加量を求める」等の出題があったが、語句の意味（「素数」、「外角」、「増加量」）が理解できていない、または定義を確実に理解できていないために正しい回答ができていない生徒がかなりいると推測できる。

また、文字を用いた事象の説明や図形の証明問題など、記述に対する力がついていないところも気になる。説明を要する問題に対して、無答率（何も答えていない生徒の割合）が3割を超えている。国語にも共通するが、説明するための根拠や法則を理解した上で活用する事が必要であるため、まずは基礎基本の確実な定着が求められる。授業の中で、あるいは学年や学級の取り組みとして、基礎的な計算等を繰り返し解くことによって確かな力を身につけさせたい。

質問紙では、全体的に県及び全国平均よりかなり低い結果となっている。「数学の勉強が好きですか。」、「数学の授業の内容はよくわかりますか。」、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に対して、全国平均よりも大きく下回っていることからも、「わからない」ことから数学が好きになれない生徒が多くいると推測できる。そもそも他の教科に対する抵抗感が大きいことを受け、基礎基本の定着から、問題がわからることへの自信につながるような学習方法を展開する必要がある。さらには、全体での指導も必要だが小グループでの活動や協同学習におけるかかわり方を工夫し、生徒自らが課題解決を図ること、他の生徒に自信を持って説明できることを目標に、授業改善を図っていく。

<教科に関する質問紙の結果>

【数学】

肯定的回答回答が全国平均をかなり上回った項目
なし

肯定的回答回答が全国平均をかなり下回った項目（抜粋）

▲数学の勉強は好きですか。 ▲数学の授業はよく分かれていますか。

▲文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、書かれていることを理解することができます。

<理 科>

一部の問題のみの公表であり、かつ正答数のみの公表であるため、正確な課題等の分析は困難であるが、正答数から計算した正答率をみると、全国平均と比べて5ポイント程度低い結果となっている。また、項目ごとの回答状況について詳細は不明だが、全体をとおして、正答の分布が平均から少し低い生徒が多いのが特徴である。

| 教科 | 分類 | 区分 | 平均正答率(%) | | |
|----|----|-----|-------------|------|------|
| | | | 湯梨浜中 | 鳥取県 | 全国 |
| 理科 | | 全 体 | 43.3 | 45.0 | 48.3 |

質問紙では、「理科の勉強は好きですか」、「理科の授業の内容はよくわかりますか」、「理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか」等、肯定的評価が全体的に全国平均より低い結果となっており、理科についても抵抗感のある生徒が多いのが今年の特徴である。一方で、「理科の学習が日常生活で役に立つ」という意識や、「わからないことに対してあきらめずにいろいろな方法を考えること」、「日常生活や授業で理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりする」については肯定的に捉えている生徒も一定数いる。おそらく数学と同様、基礎的な内容の積み上げに課題があると推測できるため、理科で学ぶ現象や法則、計算方法等について繰り返し身についていく事が必要であると考える。

【教科に関する質問紙の結果】

【理科】

肯定的回答が全国平均をかなり上回った項目
なし

肯定的回答が全国平均をかなり下回った項目（抜粋）

▲理科の勉強は好きですか。 ▲理科の授業はよく分りますか。

▲理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ

と思いませんか。

▲理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか。

【2 学習への取組や学習環境などに関する調査をうけて】

この調査は質問紙によって、学校や家庭での生活や学習の状況を尋ねたものです。これまでの調査から、学力と生活環境は関係が深いと言われています。県や全国に比べて、本校の3年生は以下の特徴が見られます。

【望ましい傾向の項目】（肯定的回答が全国平均より多い〈3P以上〉。◎は特に多い〈8P以上〉。）

- 毎日同じくらいの時間に寝ていますか。
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- ◎学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
- ◎1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使用しましたか。
- ◎自分がPC・タブレットなどの機器を使って情報を整理することができると思いますか。
- 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。
- 授業や学校生活では、友達や周りのひととの考え方を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。

【課題があると思われる傾向の項目】

（肯定的回答が全国平均より少ない〈3P以上〉。▲は特に少ない〈8P以上〉。）

△先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

△将来の夢や目標を持ってていますか。

▲学校に行くのは楽しいと思いますか。

▲学校の授業時間以外に、平日1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。

（1時間以上）

△1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

△ 1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていましたか。

今回の調査での結果で、学校の取組として最も大きな成果を感じているのはICT教育の充実である。ここ数年、ICT教育に関わる発問に関しては、ほとんどの質問に対して肯定的な回答をしている。教職員が授業の中で当たり前のようにタブレット端末を使用している成果の表れではないかと思う。その反面、今回の調査ではないが、SNS上でのトラブルや、タブレットの不正使用など、多くの課題があることも認識している。1学期にも生徒、保護者ともに、情報モラル講演会を行ったが、今後も様々な場面で啓発を行っていきたいと考えている。

また、今年度も引き続き大きな課題だと感じているのが家庭学習時間の少なさである。今年度の3年生も、平日1時間以上家で勉強している生徒の割合が全国平均と比較して25%以上も低く、休日2時間以上勉強している生徒の割合も10%以上少なくなっている。当然この家庭学習時間の少なさが正答率にも影響していると考えられ、それが自己肯定感（自分には良いところがある）の低さ、にもつながっているのではないかと考える。そこでまずは、3年生において進路学習の取組を進めながら、家庭で学習する意義についても繰り返し指導していきたいと思う。

全校に対しても運動会が終わった9月下旬から、全学年で朝学活までの時間を活用して5教科の問題に取り組んでいる。はじめは既習事項の復習を中心に取り組んでいるが、生徒の様子を見ていると、「できた」「わかった」という瞬間の笑顔や、基本的な内容について確認することが自信へとつながっている生徒がいる。まずは知識の定着とともに自己肯定感、達成感を体感するところから積み上げていきたい。

同時に、授業中においても「課題を見つける」、「考える」、「伝える」という活動において、ただ漠然と協同学習を展開していても学力には連結しない。明確な根拠を持って相手に説明できるように意識付けをさせるためには、根拠となる定義や語句、法則や結果等の基本的な学習事項をどれだけ自分のものにさせることができるか、そしてそれをどう活用するかが重要である。指導にあたるすべての教職員がこのことを自覚し、個々の実態を正確に把握し、必要に応じた指導ができるよう、教科担任だけではなく、チームとして生徒の学力向上に関わっていく。